

注意報 要周知

奈病防第7号
令和3年6月28日

関係機関長 殿
病虫害防除員 殿
調査員・情報員 殿
農業資材販売等関係者 殿

奈良県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報の送付について

このことについて、以下の通り発表しました。

周知を徹底するとともに、適正・安全な防除について御指導をお願いします。

令和3年度病虫害発生予察注意報第2号

作物名：水稲 病虫害名：トビイロウンカ 対象地域：奈良県全域
発生時期：早い 発生量：多い 対象時期：7月

1 注意報発表の根拠

- 5月の飛来に続いて、6月21日以降、桜井市池之内の予察灯でトビイロウンカの断続的な多飛来を観測。
- 6/21：8頭、6/22：3頭、6/25：1頭のトビイロウンカが誘殺されました。これは平年より多く、平坦地域で被害が多発した昨年度と同等。

2 防除上の注意事項

○平坦地域（6月移植）

- 発育シミュレーションによると、今回の飛来による第1世代若齢幼虫期は7月中旬と予測されます。田植え時にトリフルメゾピリムを含む箱粒剤（フルスロットル、スクラム、箱将軍、サンエース、ゼクサロンなど）を処理していない場合は、下の表を参考に7月中旬に必ず防除してください。
- 第2世代若齢幼虫期は、現時点では8月上旬と予測されていますが、今後の気温の推移によって変動します。8月以降の防除については、7月の誘殺状況と水田での発生状況を踏まえて、改めて情報提供します。

○中山間地域（5月移植）

- 発育シミュレーションによると、5月飛来群の第2世代若齢幼虫期は7月中下旬と予

測されます。また、6月飛来群の第1世代若齢幼虫期は7月中旬と予測されています。

下の表を参考に7月中旬に防除してください。

- (2) 液剤散布を行う場合、出穂後では株元に薬剤が付着しにくくなります。出穂までに株元を狙って散布して下さい。

3 農薬安全使用上の注意事項

- (1) 農薬を使用する際には、ラベルに記載された登録の有無、収穫前使用日数や使用回数を確認するとともに、止水期間を遵守して下さい。
- (2) 水面施用粒剤やなげこみ剤を使用する場合は、湛水してから処理し、散布後7日間は落水、かけ流しをしないで下さい。
- (3) ほ場周辺への薬剤飛散防止に努めて下さい。風の強い日は散布を控え、散布する場合であっても風向きに注意し、収穫期に近い他作物へ飛散しないようにして下さい。

表 トビイロウンカの主な防除薬剤（令和3年6月9日現在の登録状況）

薬剤名	IRACコード	希釈倍率または使用量	収穫前使用期間	使用回数
MR.ジョーカーEW	3A	2000倍	収穫14日前まで	2回以内
		16倍(無人ヘリ0.8L/10a)		
トレボンEW	3A	1000倍	収穫14日前まで	3回以内
トレボン乳剤		1000～2000倍		
トレボン粒剤 ※1		2～3kg/10a		
スタークル/アルバリン粒剤 ※2	4A	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
スタークル豆つぶ ※2		250～500g/10a		
エクシードフロアブル	4C	2000倍	収穫7日前まで	3回以内
		16倍(無人ヘリ0.8L/10a)		
エミリアフロアブル	—	1000倍	収穫7日前まで	2回以内
		8倍(無人ヘリ0.8L/10a)		

※1：6月移植水稻で使用する。 ※2：使用上の注意に書かれた水深に注意する。

お問い合わせは
奈良県病害虫防除所 TEL. 0744-47-4481
 その他関連情報は以下をご覧ください
病害虫防除所ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/nara/>
奈良県農薬情報システム（農作物病害虫・雑草防除指導指針）
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/nara>

pdf 冊子「奈良県における令和2年のトビイロウンカ多発について」を病害虫防除所ホームページに掲載しています。

